

学園だより



Vol.209

March

2024

弘前大学

特集

卒業・修了・退職にあたって



巻頭言 2 / 特集 卒業・修了・退職にあたって 4 / 研究室紹介 18 / 新任教員紹介 20 / TOPICS 21 / 編集後記 22

作品名：体の中の小さな世界#1 陶彫 サイズH30×W25×D21cm
制作：教育学部学校教員養成課程 初等中等教育専攻 小学校コース 4年 山口 舞子

コロナ禍を ともに 乗り越えて

弘前大学長
福田 眞作

新型コロナウイルス感染症が完全に収束したわけではありませんが、令和5年5月8日に感染症法上の位置付けが5類に移行されました。各個人の判断で感染対策を行いながら、社会活動は徐々に活発化してきています。本学における学生の大学生活や教員の研究活動もまた、オンライン授業や会議などコロナ禍で手にした経験や財産を柔軟に活用しながら、少しずつもとに戻りつつあります。そしてこの津軽が最も華やぐ春の到来とともに、皆さんとのお別れの時を迎えようとしています。弘前大学を卒業される学生の皆さんと退職される皆さんに対して、本学を代表して送別の言葉を述べさせていただきます。

令和5年度末をもって本学を卒業・修了される学生の皆さん、まずは心からお祝いを申し上げます。ご卒業、誠におめでとうございます。令和2年4月に学長に就任して以来、その大半は皆さんとともにコロナパンデミックの渦中にありました。希望に胸をときめかせるはずだった皆さんの大学生活は、新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機と対峙した4年間であったと思います。晴れの入学式は中止となり、入学直後から授業は遠隔授業へ、そして日常生活で様々な制約を受けるなど、皆さんは過去のどんな世代も経験したことのない苦労と苦難に直面しました。皆さんのことを「コロナ世代」と呼ぶ方もいますが、「逆境に打ち勝ち、未知の未来に向けて前進する強い意志を持った特別な世代」だと私は思います。そんな皆さんの旅立ちを心から祝福すべく、今年の卒業式はコロナ禍前とほぼ同規模で執

り行いました。入学式のなかった皆さんの心に最後で最高の思い出として記憶されたなら、こんな嬉しいことはありません。改めて、学びを諦めることなく卒業の日を迎え、晴れて旅立ちのスタートラインに立つ皆さんに、思いっきりの祝意、敬意、そして感謝を表します。卒業おめでとう、本当によく頑張りました、そして困難と一緒に立ち向かってくれてありがとう！

国際情勢の不安定化によるエネルギー価格の高騰をはじめとする物価高、コロナ禍からの社会経済活動の回復、急速に進む少子化・人口減少、DXの推進、働き方改革、そして最近の賃金上昇の動きなど、社会情勢は目まぐるしく変化しています。これから始まる皆さんの新たな旅路は希望よりも不安、そして不確実性に満ちていますが、その中にこそ未知の可能性が広がっているように思います。先人たちの言葉にあるように、リスクを恐れずに挑戦を続けることで、自身の進むべき道が見えてくるものです。人間の一生は、長くても100年しかありません。誰でもない自分自身が満足できたと言える人生は、目標に向けて挑戦を重ねた先にしかありません。どんな時も自分が進むべき道を信じ、仲間との出会いや経験を大切に、自分の目標や夢に向かって挑戦し続けてください。

今回のコロナ禍では、大学構成員（学生を含む）全員の団結力が苦難を乗り越える大きな原動力でしたが、物心両面で多大なる支援を提供くださった「弘前大学の応援団」の存在を私たちは忘れてはなりません。地域の皆さんや全国のOB・OGの皆さん、そして全国から寄せられた匿名でのご寄付と激励のメッセージに私たちは感謝の念に包まれました。傷つき折れそうな心が癒され、団結力を生み出す大きな力となり、希望を与えてくれました。今回の未曾有の困難を経験した皆さんが成長し、いずれ同じような困難な状況にある他者の心を癒し、支える存在となることを心より願っています。

このたび定年退職を迎える教員の皆さん、そのほとんどの方は他大学でのキャリアをもとに本学の教育研究の発展にご尽力いただきました。本学の強み（健康、食、エネルギー、被ばく）を中心とするテーマを中心に本学の研究力は年々向上しており、日本全体の論文数が伸び悩む中で本学は右肩上がりに増えています。また、R4年度以降の科研費獲得額が悲願の7億円を突破したほか、他の外部資金の獲得額も年々増加しています。本学の研究基盤の底上げにご貢献いただきました皆さんに心から感謝を申し上げます。

本学を退職される事務職員の皆さん、色々な部署で本学が直面した様々な課題にその中核となって対応いただきましたことに感謝を申し上げます。国立大学が法人化されたのが2004（平成16）年、その法人化を挟んで勤務いただいた方々は、遠藤正彦元学長と佐藤敬前学長のもとで繰り広げられた「弘前大学の大改革」の当事者でした。中期目標・中期計画の立案と実施、そしてその評価への対応、法人化による運営費交付金の削減への対策、外部資金の獲得の取組、大学組織改革（学部改組、新規学部・研究科・研究所の創設など）、産学官連携の推進、各種の国の補助事業への挑戦、そして今回のコロナ禍への対応など、献身的に責務を遂行いただいた皆さんの存在がなければ、弘前大学の今日までの発展はなかったはずです。これまでの皆さんのご貢献に対して、本学を代表して心からの敬意と感謝の意を表するとともに、めでたく退職されますことにお祝いを申し上げます。

弘前大学は昭和24年に新制大学として創立され、70年を超える歴史を刻んでおり、これまで7万人を超える卒業生を輩出しています。本学がコロナ禍において経済的に困窮する学生を支援する様々な取組みの実施にあたり、日本全国で活躍している多くの卒業生の方々から寄附金等の支援をいただき、改めて卒業生のありがたさを実感いたしました。その際に、「全国的な卒業生のネットワーク」の必要性を訴える意見を多数いただきました。弘前大学の各学部の同窓会の現状は、新規会員の確保や名簿管理等に苦勞しており、全国の同窓生への情報発信や卒業後の交流体制ができているとは言い難い状況にあります。このような背景から、卒業生の皆様に向けて本学の情報の定期的な配信、学生と卒業生の交流イベントや各同窓会の活動支援など、卒業生との連携を強化する取組みを推進する「弘前大学校愛会」を令和6年4月よりスタートします。卒業生の皆さんのご入会、よろしくお願いいたします。

残念ながらおよそ7割の卒業生は、就職や研究の場を求めてここ青森県を離れます。また教職員の中にも、退職に伴い弘前を後にされる方がおられると聞いています。卒業生から「時間が経つにつれて、弘前で暮らした景色が懐かしくなる」というような話をよく耳にします。弘前公園の咲き乱れる春の桜、夏の夜空と扇形のねぶた、涼しい風に揺れる秋の紅葉、そしてすべてを覆う真っ白な冬の雪景色など、格別に彩りが豊かな津軽の四季は皆さんの思い

出の風景として心に刻まれているはずです。第二の故郷、あるいは青春時代を刻んだ特別な場所に、いつの日か再び足をお運びいただき、そして昔を懐かしみ思い出にひたる特別な瞬間が皆さんに訪れるよう願っています。皆さんの未来の訪問、心よりお待ちしております。

最後に、今年度末をもって本学を去られ、次のステージに進む卒業生・教職員の皆さんに、改めてお祝いと感謝を申し上げますとともに、皆さんの益々のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。弘前大学はいつまでも皆さんの応援団であり続けます。皆さんもまた同窓生として弘前大学のこれからの歩みを温かく見守りいただき、時折、ご声援とご支援を賜りますようお願い申し上げて、送別する言葉に代えさせていただきます。



卒業・修了おめでとうございます

Congratulations!

人文社会科学部／人文社会科学研究科

大学生活を振り返って



人文社会科学部
文化創生課程

石澤 真菜

コロナウイルスの影響で、入学式の中止という異例の事態から始まった大学生活。気づけば私も4年生となり、もうすぐ卒業を迎えます。

この4年間で、ゼミやサークル、アルバイトなどを通して沢山の思い出ができましたが、その中でも外部の古文書調査に参加する機会を頂いたことは私にとって貴重な経験でした。

明らかに経験不足である私は、初めて触る膨大な数の史料や参加されている先生方の意見交換の姿などに終始圧倒され、自分の知識のなさを痛感しました。しかし、それと同時に、地域資源の保存と継承の大切さを改めて実感し、自分の研究との向き合い方だけでなく将来の姿について考えるきっかけとなりました。

私が過ごしてきた大学生活は、正直一生懸命頑張ったとは言えないものだったと思います。私の大学生活の様子を見て、多くの人は、私を「何となく地元の大学に入って何となく卒業していく人」と見るでしょう。私自身も後悔がないわけではありません。ですが、弘前大学に進学したからこそ経験できたこと、学べたことがあるのは事実ですし、より地元が好きになった4年間だったと感じています。

家族、そして先生方をはじめ4年間で出会った沢山の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。今まで本当にありがとうございました。これからも頑張ります。

充実した大学生活



人文社会科学部
社会経営課程

筑前 幸也

弘前大学の合格が決まったとき、新しい生活が始まるのをわくわくしたのを鮮明に覚えています。入学した頃は、コロナ禍の状況で、多少の不安がありましたが、自らコミュニティーに参加することで多くの人に会うことができました。特に、ゼミや部活、サークル活動は、貴重な時間を過ごしたと思います。ゼミでは、4年間遊んだり、悩みを聞いてもらえる仲間ができました。夏休みの間にコテージを借りて、BBQをしたり、いろいろ遊んだのはとても楽しい思い出になりました。また、部活では、厳しい練習を耐え抜いた仲間ができたことで、大会で遠征をした際には、先輩、後輩仲良く、楽しい時間を過ごせました。部活の仲間とは、貴重な関係が築けたと思います。

最後に、充実した学校生活を送ることができたのは、周りの人たちに恵まれていたからだと思います。家族や友人、先生など支えてくださった方に感謝しています。弘前大学に通って、ほんと良かったと思える4年間でした。ありがとうございました。

ダンスと研究と私 ～美しい岩木山を添えて～



人文社会科学研究科
人文社会科学専攻

棟方 舞

入学前、私にとっての弘前大学は、『父と母が通っていた大学』であり、私の弘前大学における最初の思い出は、後期試験の日に総合教育棟4階の窓から見た、美しい岩木山の姿でした。その岩木山を見て、ああ、私もこの弘前で4年間を過ごすんだな、と妙に納得した気持ちになったのを覚えています。

弘前大学では、4年間どころか6年間もの長い時間を過ごしました。部活動の競技ダンスに明け暮れながら、考古、思想、歴史、文学、法学など色んな講義を受けて興味関心を満たしていた学部生時代。また、専攻の文化財科学については、今後の人生で自信を持って『出土木材の保存処理について研究をしていた』と言いたくて、大学院に進学を決めました。多くの先生にお世話になりながら、自分のペースで自分の好きなように研究を進め、今ではもっとできたかな、結局まだまだ知らないことばかりだなと思うけれど、後悔はありません。自分とはどういう人間なのか、どのように操作すればいいのかを少し知ることができ、自分にとって意味のある素晴らしい2年間を過ごしたと思います。大学生活の6年間すべてが非常に充実しており、私と関わってくださった競技ダンス部の仲間、ゼミの皆さん、先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業と思うと寂しい気持ちになりますが、また青森に帰省したタイミングなどで、研究室や部室に遊びに来たいと思っています。いつでも心に弘前大学を…。

教育学部／教育学研究科



教育学部
学校教育教員養成課程

尾形 爽

後輩の皆さんへ

マスクをとったら、あれ、想像していた顔と違ったな、っていう時ってありますよね。あれはなんでなのかっていうと、人間っていうのは、見えてない部分を頭の中で勝手に理想化する生き物だかららしいです。人間というのは、ほんとにもう、勝手な生き物ですね。

マスクにかかるお金って、本当にもったいないなと4年間思い続けていました。でも、安いマスクを買ったと、なんか、アゴの部分が痒かったり、耳が痛かったりして、なんかあれ、嫌ですね。私は、耳にかかる部分が柔らかくなってるマスクが好きです。友達の中にはマスクを洗ってもう一回使うという人もいて、大学生は大変だなあ、と思います。しかも、その大学生のなけなしのお金を使って買ったマスクも、ひげ剃りをサボった日とかに限って、外さなければいけない場面とかが来るんですよ。本当に、嫌になりますよね。

ひげとえば、私は友達に、男は清潔感が大事だよ、と教えてもらったので、青森市で脱毛してもらったのですが、あれは、すごく痛いんですね。あれは、痛い。ただ効果はあるので、後輩の皆さんはぜひ通う事をおすすめします。最後になりますが、大学生活楽しんでください、応援しています。



教育学部
学校教育教員養成課程

川崎 楓華

そして始まりの鐘が響く

雪が降ると4時30分起きで支度し、バス停まで徒歩30分。バスと電車を乗り継ぎ、大学まで再び30分歩く。片道2時間半もの道のりを通い続けました。こんな生活から早く抜け出したいと何度も思ったのですが、本当の「終わり」を目にした今では何だか寂しく思われます。

大学に入学してからたくさんの尊敬すべき人たちに会い、その素晴らしさを実感する度に自分と比較しては落ち込む日々が続きました。自分の頑張りが成長はなんてちっぽけなのだろうと。あるとき、友人の前でその思いをこぼすと「それは違う」と言われました。「たとえミジンコほどであったとしても、あなたの一步は確かな一步。確実に前に進んでいる。」その言葉がやけにストンと落ちてきて、この4年間は決して無駄なものではなかったのだと、そう思えるようになりました。

これまでの葛藤や未来への不安を抱えて、私はまた始まりの季節を迎えます。4月になったらどんな生活が始まるのでしょうか。上手いかずに涙することもあるかもしれません。しかし、どこまでもひたむきに、子どもたちのために努めていきたいと思っています。子どもたちとともに失敗や発見を積み重ねながら、格好悪く愚直に向き合える教員でありたい。そう思わせてくれた全てに感謝し、これからも成長し続けていきたいと思っています。



教育学研究科
教職実践専攻

高田 真那

成長できた2年間

もう一度学び直そうと決意した日からあっという間の2年間でした。教職大学院での2年間はとても忙しく、大変な毎日でしたが、充実した学びのある毎日でもありました。講義を通して様々な分野について学び、演習を通して実践力も身につけながら、それを実習等で実践し、省察を繰り返してきました。2年前は自分に自信をもてず、教員として働くことに不安を抱えていましたが、様々なことを学び、経験させていただいたことで、以前よりは少し自信をもてるようになりました。

この2年間で大きく成長できたのは教職大学院の先生方、実習校の先生方、子どもたち、他の院生など、たくさんの人達がいつどんな時も周りで支えてくださったからです。これからはこれまでに得た様々な学びや経験を糧に教員として働くことになります。これまで支えてくださった方々に恩返しができるよう、頑張りたいと思います。最後になりますが、教職大学院で学ぶことができて本当に良かったです。これまでお世話になったすべての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

医学部医学科



医学部
医学科

三好 真代

卒業によせて

卒業を目前に控えた今日この頃。あっという間だった弘前大学での大学生活が思い出されます。

医師を志し、医学を学べる事への期待一杯に入学した日を今でも鮮明に覚えています。大学生活は常に課題や試験に追われる毎日で想像以上に大変でしたが、先生方のご指導や友人のおかげで向上心を持ちながら医学を楽しみ勉強することができました。附属病院での臨床実習では、座学では学ぶことができない知識を患者様から学ぶことができました。

学業面以外でも様々な経験をすることができました。特に、りんご農家でのアルバイトやりんごの木の1年オーナーといった青森ならではの体験をすることができたことは関西出身の私としては貴重な経験となりました。地元の方との交流を通して津軽弁を学んだり、三味線を弾いてみたりとその土地の文化に触れることの楽しさも改めて知ることができました。

地元を離れた生活で不安なこともありましたが、楽しく前向きに学び、素晴らしい経験をする事ができたのは、先生方、友人、家族のおかげであると思います。本当にありがとうございました。

弘前大学で学んだことを糧に、社会に貢献できる医師となれるよう頑張ります。



医学部
医学科

中野 友莉

大学生活を振り返って

大学に入学してから同級生の友達や部活の仲間、アルバイトの仲間、研究室の方々など数多くの出会いがありました。高校までは地元で家族や同世代の仲間が中心の生活でしたが、大学で自分とは全く異なる背景を持つ人々と交流し、世界が大きく広がったように感じます。5・6年時の病院実習では初めての経験に苦戦することも多くて、至らない点ばかりでしたが、患者さんや病院の方々など様々な人のおかげで、最初の頃と比べると少しは成長できたと思います。実習も含め大学生活で学んだことは、日々過ごす中で支えになってくれています。これまでお世話になった方々にはほんとうに感謝しています。ありがとうございます。

長かった大学生活を振り返ると、コロナ禍で思い通りの生活が送れないなど辛いときもありましたが、総合的にみるととても楽しい日々だったと思います。大学卒業後はさらにたくさんの人々との出会いや、これまでにない経験が待っていると思います。後々こうして振り返ったとき楽しかったと思えるように、これからの毎日を過ごしていきたいです。



医学部
医学科

高見 勇也

北の国から

「今、医学部の6年生で国家試験に向けて勉強に励んでいる」という現在の姿を高校生の時の自分が見たら、きっと驚くに違いない。その頃の私は高校の理系科目の授業についていけず、文系を選択し「何となく偏差値が高い大学に行きたい」程度の考えしかなかった。紆余曲折あり、文系の大学を卒業し会社員として2年間過ごし、ここ弘前へ来ることとなった。弘前大学医学部に入学して最も強く感じたことが、高校生の時点で将来自分が就きたい職業を選択し、それに向かって努力を続けている学生が殆どであるという点だ。高校生の時の自分と比べて精神的に成熟していると感じ尊敬の念を覚えたことを記憶している。

人生で初めて足を踏み入れた弘前の地は、圧倒的な降雪量を除いては私にとって非常に過ごしやすい環境であった。半径3km程度の市街地に生活に必要なものや一通りの娯楽が網羅されており、自家用車があると全く不便を感じない。ラーメン店の競争が激しくハイレベルなラーメンをいつでも食べることができる。慣れない雪道で車をスタックさせてしまった時は地元の方々が親切に手伝ってくださった。感謝しかない。

卒後は栃木県で勤務する予定であるが、弘前で得たことを活かし医師としてのキャリアを進んでいきたい。

医学部保健学科／医学部心理支援科学科／保健学研究科



医学部保健学科
看護学専攻

石川 沙稀

大学生活を振り返って

大学で過ごした4年間は本当にあっという間でした。入学と同時にコロナ禍となり対面での授業がなくなってしまうことで、1年生の頃は学校に行く機会がとても少なかったです。そのため入学当初は不安が大きかったですが、徐々に普通の生活に戻っていきとても楽しく充実した4年間で過ごすことができました。

大学生活を振り返ると学校やアルバイトなどでたくさんの人に出会うことができたと感じます。勉強をしたり遊びに行ったりして多くの時間を一緒に過ごした友人、実習を共に乗り越えたグループの仲間、アルバイト先の先輩、同期、後輩など様々な人と出会ったことで本当に楽しい大学生活を送ることができました。また、コロナの影響により予定通りに実習を行うことができなかったこともありましたが、その中でもどうにか学べるように対応してくださった先生方にも本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからの新しい環境に対して不安や心配もありますが、大学4年間で学んだことをいかして今後も頑張っていきたいと思います。4年間本当にありがとうございました。



医学部
心理支援科学科

本間 真凜

大学生活で得た財産

私は、自らの生きづらさの正体と、自分と同じように苦しむ人の支えになりたいという強い意志から、心理専門職である公認心理師を目指して、この学科を受験しました。一期生ならではの大変さも伴いましたが、精神医療について質の高い教育を受けることができ、尊敬できる同級生と共に切磋琢磨しながら、充実した大学4年間で過ごすことができました。

大学生活では、コロナによる閉塞感や孤独感など、決して良いことばかりではありませんでしたが、だからこそ自分自身と真剣に向き合うことができ、支えてくれる人の存在や人との出会いに心から感謝することができました。多様な価値観に触れ、自身の内面を豊かにできたことが大学生活の一番の財産であると感じています。

大学卒業後は、公認心理師資格の取得のため引き続き大学院へ進学しますが、これからも自身を取り巻く周囲の人に感謝の気持ちを忘れずに勉学に励んでいきたいです。また、人の心理のように、目に見えず答えのない問いに対して、性急に解を求めるのではなく、問題をそのままにして考え続ける姿勢を大切にして、生きづらさを抱える人の気持ちに寄り添うことができるように、今後もよりいっそう精進していきたいです。



保健学研究科
保健学専攻

木曾 水稀

被ばく研での学び

学部4年生で研究室に配属されてから約3年間、私は被ばく医療総合研究所において様々なことを学び、経験させていただきました。私の所属していた研究室は、外部との繋がりがとても多く、留学生を含め学生の人数も多い研究室でした。そのため、私はこの研究室ならではの特徴を活かし、日本語英語問わずコミュニケーションを取ることや、何事にも積極的に行動することに意識して研究室生活を過ごしてきました。様々なことに挑戦していたこともあり、キャパオーバーとなって体調を壊すことが何度もありましたが、4度の国際学会での発表や、研究室30人の懇親会の幹事、学会運営、放射線技師としてのアルバイト、コロラド州への海外留学など、本当に沢山の経験をすることができました。その結果、様々な考え方をもつ人や文化の異なる人と交流し、幅広い知見だけでなく、柔軟な考え方や変化への適応力なども得ることもできました。

弘前での学びと出会いによって、私は大きく成長でき、1人では見つけられなかった自分のたくさんの長所を発見できたと実感しております。来年度からは自分のバイタリティを発揮し続けながら、学生生活で得られた知識や人との繋がりを生かして社会へ貢献していきたいです。お世話になりました皆様に深く感謝申し上げます。

理工学部／理工学研究科



理工学部
電子情報工学科

伊藤 琉乃

長く短い大学生活

高校3年生の冬、弘前大学への入学が決まりどのような生活が待っているのかワクワクしていた。しかし、蓋を開けてみたら、新型コロナウイルスの第一波で入学式は中止。前期の授業はフルリモートで行われた。当然サークル活動等の課外活動も禁止され、ずっと家の中で引きこもった記憶がある。この時期はほぼ毎日パソコンの前で授業を受けて、終わったらご飯を食べて課題をこなし、寝るだけという単純なサイクルを取ってたせいか時間が妙に早く感じた。

規制が少しずつ緩和されていった、大学2～3年生の時期も新型コロナウイルスに振り回されて生きてきた気がする。ほとんど規制のない従来の生活に戻れたのは大学4年生になってからだろうか。大学4年生ともなると授業を受ける機会が減り、やることといえば研究室にこもり、卒業研究を進めるだけという大学1～3年生の時期とあまり変わらない生活を送っている気がした。今も毎日時間の進みの速さに驚いている。何と言ってももう卒業してしまうからだ。こうして振り返ってみると高校生の時には、長いと思っていた大学生活が暮らしてみるとほんの一瞬、けれど長く短い大学生活であった。



理工学部
地球環境防災学科

山口 悠介

4年間で得たもの

2020年4月、弘前大学に入学しました。当時は新型コロナウイルスが流行し始めた頃で、初っ端からオンライン授業でした。朝起きてパソコンをつけ、家で授業を受けるという毎日。人との関わりも少なく、想像していた大学生活とはかけ離れたもので不安になったことを覚えています。そう思っていた日々もつかの間、一年後期ついに対面授業になり、想像していた大学生活が始まりました。楽しい日々を送っていましたが、気付けば卒業間近。あっという間に終わりを迎えようとしています。

4年間の大学生活で自分はなにを得ることができたのだろうか。遡って考えてみましたが、特別な何かを得ることはできませんでした。しかし、ひとり暮らしを通して一人で生きる術を身につけることができました。初めて経験したアルバイトで社会を知ることができました。友達とのたくさんの思い出もできました。もちろん、大学での講義でたくさんの知識を得ることもできました。特別な何かを得ることができなくても、自分は人として成長できたと感じます。

自分は大学院に進学するのであと2年弘前で大学生活を送ることができます。今まで通り生きるのも良いですが、せっかくの機会、何か新しいことに挑戦してみたいとも思っています。まだ大学生活を送ることができる皆さん、あまり気負わずより良い大学生活を。



理工学研究科
理工学専攻
数物科学コース

山内 康平

振り返り見れば並ぶ

大学院修了を目前にして、故郷の仙台を離れ、北鷹寮に入寮した日のことが鮮明に思い出されます。寮室の窓から見えた曇り空と少し降る雪は、私にとって大学生活の始まりを印象づける、この先忘れることはないであろう景色です。幸い北鷹寮同フロアの同期や先輩方に恵まれたこともあり、初めて親元を離れた私ですら何事もなく大学生としての生きる術を培うことができました。

振り返れば、大学生活の殆どは勉学と共にありました。鬱屈とした大学受験から解放され、興味の赴くままに専門書を読み漁ることができる環境は新鮮で充実していました。大学・大学院での6年間は、重力や宇宙への理解を少しでも先に進めるために出来る限り時間を費やせたと思います。論文の一行、たった1つの言い回しを理解するために惜しみなく議論を重ねたゼミや学会は、単一分野では到底理解し切ることのできない物理学の複雑性と魅力を再認識させられた有益な時間でした。

6年間お世話になった理工学研究科の先生方、理論宇宙物理学研究室の皆様、共に過ごした北鷹寮生の皆様、そして何より、当たり前のように6年間大学・大学院に通わせていただいた両親に感謝をしたいと思います。

農学生命科学部／農学生命科学研究科

農学生命科学部
地域環境工学科

伊藤 和磨

4年間を四季とともに

私は弘前に引っ越してきて最初に「この土地の自然をめいっぱい感じたい」と思いました。今振り返ると、この思いが自分の4年間に彩が生まれたきっかけであると感じます。

春は、なんといっても弘前城の桜。満開の桜に大学生活の期待を、散り際の花筏に一期一会や地元への寂しさを寄せ、とにかくこれから頑張ろうという気持ちでした。夏は、課題に追われ汗をかきながらも、友達と川や海で涼しさを感じました。大学生となりできることが広がった夏は自然がより近くに感じられました。昔から川が大好きだった自分にとって、この経験が自分を今の研究におぼれさせる原因でした。弘前の秋はやはりりんご。この時期は弘前でしかできないことを体験したかったので、りんご収穫のアルバイトを詰めました。作業で乾いたのどに食べたりんごの味はいまだに覚えています。初秋では緑だった岩木山がしだいに紅くなり、かと思えば雪化粧をする様が一年の移り変わりの早さを実感させてきました。冬は一番つらくそこそこ楽しいです。講義中に見える雪に癒されましたが、帰り道では腹が立ちます。雪を尻に敷けるウィンタースポーツは最高です。皆さんもぜひ。

大学の4年間で何を学ぶか、何を感じるかは人それぞれです。私は季節を感じることで弘前という町を学び、自分が興味を持つことを見つけました。自分の目標がわからなくなったときは、学校の外に目を向けてみてください。

農学生命科学部
国際園芸農学科

唐崎 倅輔

コロナニモマケズ

「コロナのせいで可哀そうだったね」とか「大変な学年だったね」と多くの方に言われます。確かに思い描いていた大学生活ではありませんでしたし、我慢を強いられることも多くありました。ただ、悪いことばかりじゃなかったなと私は思うのです。

入学当時は資格取得の勉強をしてみたり、体を鍛えてみたり、自己研鑽に努めました。結果は聞かないでください(笑)。日々研究のために朝から晩まで畑で汗を流し、学業に励みましたし、プライベートでは友人と旅行や音楽フェスへ行くなど、活動的に過ごしました。もちろん大学生なのでお酒を飲んでくだらない時間もたくさん経験しましたが、ここでは割愛します。アルバイトは掛け持ちをして、いろいろな店で様々な経験をさせて頂き、人との接し方や作業の効率のよい進め方など今後活かすことのできる力を身につけることができました。

まだまだ話しきれない思い出ばかりですが、ここでは書ききれません。コロナにも負けず、雪にも夏の暑さにも負けず、充実した4年間だったと胸を張って言えます。私にたくさんの思い出をくれたすべての人に心から感謝致します。本当にありがとうございました。

農学生命科学研究科
農学生命科学専攻

吉岡 龍一

予定は未定

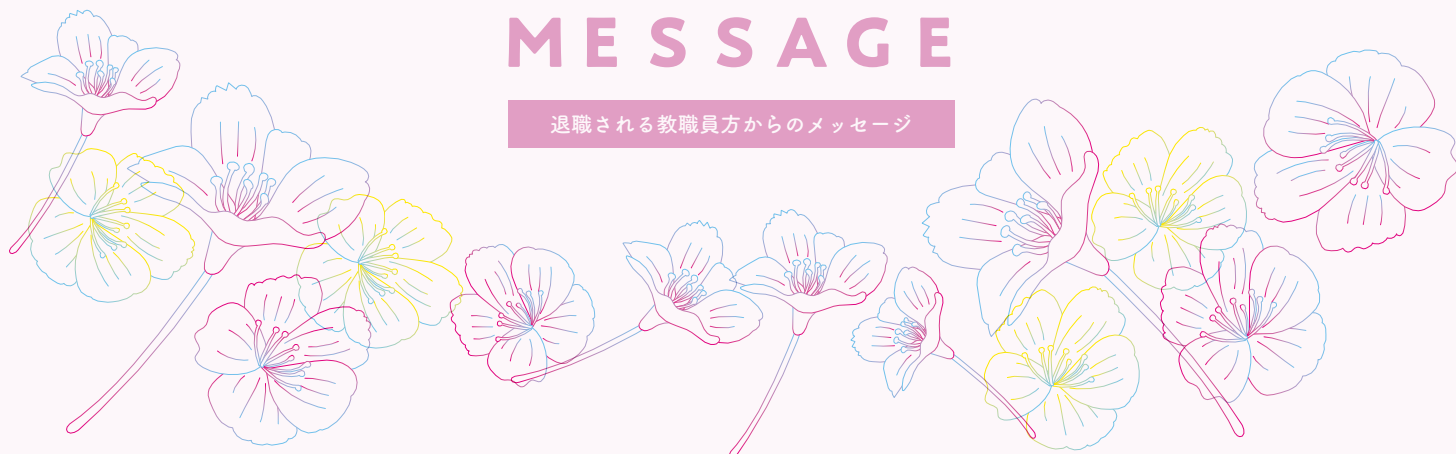
修士課程での予定は、大きく2つありました。公務員試験に合格することと、納得のいく修論を書き上げることです。前者については、無事達成することができました。学部1年次から志望していた進路であったので、とても嬉しかったです。しかし、後者については予想外のことが起きました。研究に熱心に取り組んだことでさらなる興味が湧き、修士2年間では時間が足りなくなってしまったのです。そこで、博士課程に進学することを決めました。公務員になるタイミングはこれから何度でもあります。今取り組んでいる研究内容は今しかできません。博士課程に進学することに不安もありましたが、これからの3年間の研鑽が私をまだ見ぬ世界に連れて行ってくれると思うと楽しみです。

上記のことからも分かるように、修士の2年間は自分がどうありたいかを頻繁に問う期間でした。この問いに向き合い続ける中で苦しんだこともありましたが、後悔のない選択ができました。今後も大きな決断を迫られる時には、良かったと思える道を選びたいものです。

最後に、学部・修士を通してお世話になった先生方、気遣ってくださった用務員や学食のスタッフの方々、そして両親に心から感謝申し上げます。

MESSAGE

退職される教職員方からのメッセージ



人文社会科学部
コミュニケーション講座

准教授
熊野 真規子

35年間を500字程度!?

退職の原稿依頼は久々の学園だよりとの接点。研究室内の学園だよりを「発掘」してみた。頼まれて92号表紙に写真提供しただけなのに教授会の投票でまさかの編集委員に選出されてしまい(96号～)、106号表紙(三内丸山遺跡発掘当時スナップ)のせいか次号から編集委員長に。104号からA4版。105号の瀬川書店から始まった「弘大かいわい」の記事はいま読んでもディープで面白い(私は107号で富田郵便局をインタビュー取材)。「E-mailで原稿集め!体験」(110号)なんて今では笑える。そして、かつて退職の原稿は2000字程度あったのである。誰か卒業研究で昔の「学園だより」も掘ってみてほしいものだ。

さて、取り組んだことと言えば、フランス語(文化)をきっかけとした人づくり、まちづくり。資料館企画展「弘前×フランスー外国語教育×フィールドワークの可能性」で振り返る機会をいただき、教育研究グループが生まれたり、他県の教員・学生が交流研修で弘前を訪れたり、新たな研究課題が加わるなどして現在に至る。弘大フランス語ホームページは退職と共にcloseというので、旧アーカイブ含め2年前に学外サーバーに移転した。参加学生募集等の可能性もあるので、今後どうぞよろしく。
<https://hirofrench.com/>

同僚・学生に迷惑をかけつつ、2015年度からは子育て・介護中の研究者支援制度(男女共同参画推進室)に採択していただき、定年まで仕事を続けることができたことに感謝である。介護は今後も続くが、これまでの介護17年もなかなかレア、経験知が何かお役に立つことがあるかもしれない。「現代アートは認知症高齢者に効く?」「おしゃべりな介護者は重度認知症高齢者を延命?」などの実感、どなたかに検証してもらえないだろうか。



人文社会科学部
ビジネスマネジメント講座

教授
保田 宗良

退職にあたって

1990年1月1日付の着任になるので、弘前大学には34年3か月奉職させて頂いた。学部のゼミナールの卒業生は280人を超え、彼らは様々な地域で力を発揮している。ゼミナールの教育は地域のフィールド研究を進め成果を公表して、客観的評価を得ることを目標にして進めた。こうした形式は教科書に書いてあることを総合的に理解するために、有効であった。

2006年4月から2010年3月まで4年間、学生就職支援センター長を務め文京地区4学部、医学部保健学科の学生の就職指導に尽力した。2007年12月発行「弘前大学 学園だよりVol.157」の巻頭言に私の手記が掲載されている。センター長としての私の考えをコンパクトに示したものであるが、内容を丁寧に読み直してみると当時の熱い気持ちが蘇る。

少子化で高校生が激減している。着任当初、青森県の県立高校は1学年10クラス、定員が400名程度であったと記憶している。現在は、一番大きな高校でも1学年定員が240名である。18歳人口の減少は大学入試に大きな影響を及ぼす。全国には定員割れにより、大学レベルの講義ができない私立大学が増えている。弘前大学がそのような状況に陥らないことを願っている。

教育学部
教育保健講座教授
田中 完

弘前大学で四半世紀

私は、弘前大学医学部を卒業し大学院医学研究科を修了しました。小児科医としていくつかの地域病院へ勤務後、1999年から弘前大学医学部附属病院勤務となり、以後約25年間本学へ在籍しました。この間、2010年からは教育学部養護教諭養成課程に異動しましたが、教育学部では異分野からの参入を快く受け入れて頂きました。2015年からは晴天の霹靂で附属小学校校長職を3年間拝命しました。医師と小学校校長を経験した者はめったにないことと思います。医学・医療分野の狭い世界しか知らなかった私にとって、得難い経験で大変勉強になりました。学校では様々な行事がありますが、行事を経るごとに子どもたちの成長ぶりが実感され、成長期の子どもたちにとって学校行事がいかに重要であるか身をもって知りました。このことは小児科医としての私にとっての大きな財産です。また、これまで多くの方々のご協力を得て、弘前大学の名のもと、まとまった数の英文論文を公表することが出来ました。本学の「世界への発信」の一助になったとすれば幸いです。

大学卒業後の約3/4の期間を本学の教員として過ごさせて頂いたこと、改めて感謝申し上げますとともに、本学の益々の発展を祈念致します。ありがとうございました。

教育学部
教育保健講座教授
葛西 敦子

研究は仲間がいれば楽しきもの、教育は学生への愛

私は生まれも育ちも弘前です。教育学部特別教科（看護）教員養成課程（「特看」と呼ばれていました）を卒業後、附属病院で看護師4年間、「特看」（2005（平成17）年9月閉課程）で16年間、養護教諭養成課程で23年間勤務し、弘前大学での在職は43年間に至ります。医療現場での看護師の経験は、看護学教育の土台となっています。定年まで看護教育一筋と思い描いていました。それが養護教諭養成に従事することになったのは、私の人生において想定外の出来事でした。当初は、「養護教諭養成における学校看護学教育」は学問的にまだまだ発展途上にありました。全国の国立大学教育学部養護教諭養成課程で看護学を担当する先生方（10大学）との共同研究が始まり、「養護教諭に必要な看護学の知識と技術は何か」を楽しく研究してきました。国立大学法人として東北で唯一の本学養護教諭養成課程の学生・卒業生たちに、学校看護学の知識・技術の向上に寄与できていたら本望です。私は「研究は仲間がいれば楽しきもの、教育は学生への愛」を信条としてきました。「厳しい葛西、鋭い突っ込みをする葛西」、学生たちに「私の愛」は伝わっていたでしょうか。無事定年退職を迎えることができるのは、多くの皆様に支えられ育てていただいたお陰と、感謝の気持ちでいっぱいです。

教育学研究科
教職実践専攻教授
小林 央美

気づきと学びの日々

10年程前の学園祭の真っ最中のこと。研究室を出た途端、「先生、舞ってきます。絶対見てくださいね」と3年の学生が、エネルギッシュに駆け出して行きました。「えっ、あの学生…」授業中はどちらかというとグループワークでもあまり発言をする様子は見られない…と思っていた学生です。その思いと、たった今の学生の様子のギャップに戸惑いを感じ、あわてて1年次から3年次までの5つの専門科目のレポートをひっくり返して見ました。確かに1年次の時のレポートに比して3年次になると、前向きさが増し主体的に思考しながら学びを深めていく様子が見て取れました。つまり、エネルギッシュに前進しているように感じられたのです。深く反省しました。学生の成長を見ようともせず、1年次の時の先入観から成長を見過ごしてしまっていたのです。私の研究室は正門から直線に位置し、よさこいの演舞を見るには特等席なのです。演舞する学生を目で追いながら、気づきを与えてくれたことに感謝しました。ゼミの研究指導では、「深い研究の話ができる関係性は、本質的に対等でないと生まれない」ということを教えられました。

今、退職にあたり、とても清々しい思いであります。これまでに会った学生・院生・教職員の皆様のおかげと思います。深く感謝申し上げます。弘前大学の益々の発展をお祈り致します。



教育学研究科
教職実践専攻

教授
中谷 保美

教職大学院を去るにあたって

思えば、平成31年3月青森市立堤小学校校長を定年退職し、同年4月から5年間、本学にお世話になりました。

教職大学院開設3年前の平成26年、青森県教育庁に勤務していた当時、教育学部の戸塚学前学部長や中野博之専攻長、小林央美先生等と、教職大学院の在り方や教育課程、大学院教員の採用条件等について数回にわたって意見を交わした記憶があります。ただ当時は、教職大学院というものを十分に理解できず、有意義な意見を申し上げることができなかった記憶があります。その5年後、まさか自分が、教職大学院の教員として、38年前に卒業した校舎で教壇に立とうとは、夢にも思いませんでした。

この5年間は慣れないことも多く、特に新型コロナ等には苦しい対応を迫られました。しかし、大学院生との授業や実習は楽しく、あっという間に過ぎてしまった感じです。

また、大学院や教育学部の先生方から、教育に対する高い見識、研究者としての在り方等、多くのことを学ぶことができました。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。



教育学部附属小学校

校長
高橋 眞弓

感謝

平成（懐かしい!）31年4月、縁あって附属小学校に勤務することとなりました。附属学校のガバナンス改革により附属校園の校長が常勤となる初年度の校長ということで不安いっぱいスタートでした。しかし、子どもは人なつこくてかわいらしく、また、研究熱心で教育愛溢れる先生方に囲まれ、あっという間の5年間でした。力を注いできたのは「人を愛する」ことを経営の柱に据えること。まずは子どもを愛する。子どもは個性豊かですから毎日様々な事が起こって当たり前。それを教師が温かな目で見守り、子どもや保護者との関係づくりを大切にしながら共に解決していくこと。次に、同僚を愛する。教師も様々な個性があって当たり前ですから互いに認め合い個々の良さを発揮しながら達成感のある仕事をする。そして、後輩（やがては教壇に立つであろう学生）を愛する。教育実習生には子どもと過ごす楽しさを感じてもらいたいと思い、そっと声をかけたり勝手に思いを語ったり。途中で「平成」から「令和」へ。働き方改革あり、コロナ対応あり、タブレット配備あり、校舎改修あり、学校給食存続の危機もあり、etc. なんと充実した5年間だったことか。でも、楽しかった!このような機会を与えていただいたこと、そして、5年間多くの皆様に支えていただきましたことに心より感謝申し上げます。





教育学部附属中学校

校長
伊藤 隆

感謝、そして次の夢へ

>中学生の娘に向かって「お前の夢は何？」と聞く父
>娘「パパみたいな建築家になること。だってカッコいいじゃん」
>満足そうに微笑む父
>娘「パパの夢は？」
>父「え？だってパパはもう・・・」戸惑う父
>ナレーション「いっそもっと輝こう！」♪

いきなり何の話か？と思われたでしょうが、実はこれ、私の好きなテレビコマーシャルの一コマです。

5年前、附属学校の改革の一つで、「校長の常駐化」というものがありまして、ちょうど公立学校を退職した私を採用していただきました。

弘前市出身ではあるものの、附属学校卒業生でも弘大教育学部出身でもなかった私にとっては、全くと言っていい程勝手が違うところに飛び込んだような気がしました。それでもはっきりと感じたのは、「附属中が公立化している！」ということでした。毎年、公立学校から人事交流で先生方をお迎えしているのですから、仕方のないことなのかも知れません。それでも、附属学校の役割はこれじゃない！と思い、全ての点で地域のモデル校となるべく、以来大胆な改革に取り組んできました。先生方には大変な戸惑いと苦勞をかけたと思います。また、学部長はじめ、学部の先生方には多大な御支援をいただきました。感謝に堪えません。

生徒達には常に挑戦することの大切さを語ってきました。雇い止めの年齢になってしまいましたが、冒頭で紹介したコマーシャルのようにこれからもチャレンジ精神を忘れず、次の夢を追いかけ、輝き続けたいと思います。

今までありがとうございました。



理工学研究科
電子情報工学科

教授
小野口 一則

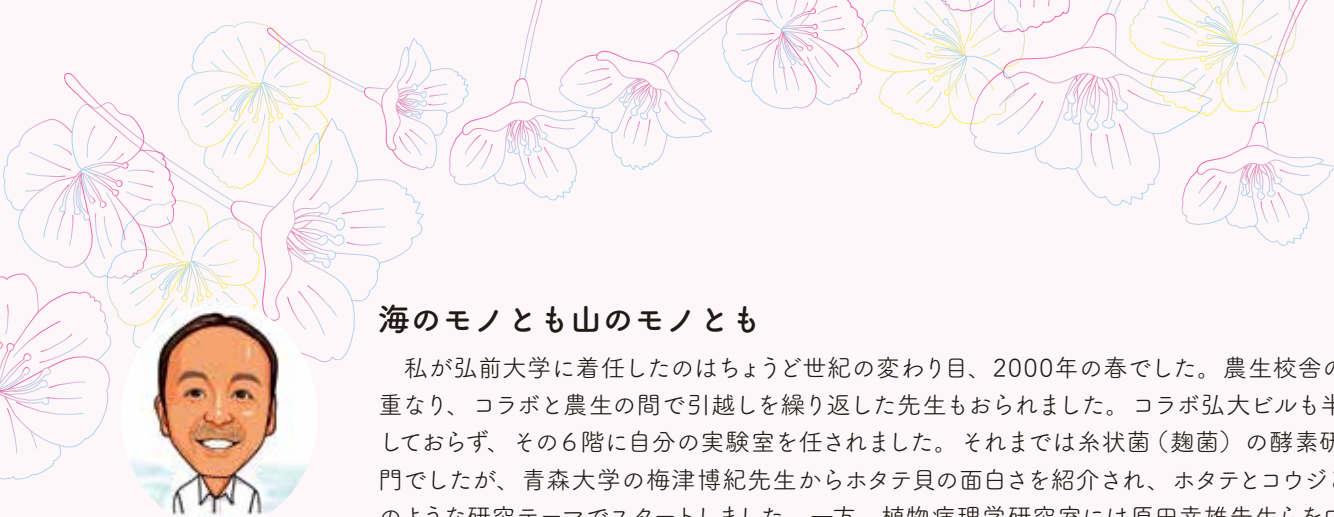
退職にあたって

20年間電機メーカーの研究所に勤めた後、本学に20年間お世話になりました。

太平洋沿岸の雪が減多に降らない所ばかりで暮らしていたので、着任した最初の冬は弘前の雪の多さにびっくりしたのを今でも覚えています。研究所時代は非常勤講師として集中講義を担当した経験はあったものの、15回の通常講義の経験はなく、教えたことをどのように学生に伝えれば良いのか試行錯誤の連続でした。もう少し工夫できたのではないかと今でも思っています。

大学では、車載カメラや監視カメラで撮影した画像の認識に関する研究を行ってきました。NEDOの自動運転・隊列走行技術に関するプロジェクトでは、側方カメラによる車線検出システムの研究開発に従事し、大型車両4台を時速80km、車間距離4mで隊列自動走行させることに成功しました。研究費で購入した実験車両にTVカメラ、パソコン、録画機を搭載し、東北自動車道を東京まで走行して車線検出用の画像を学生と共に収集したのは良い思い出です。また、降雪時の画像データは通常、得にくいのですが、雪の多い弘前では収集が容易なため、降雪により視界が悪い状況での画像監視技術や雪道での車載画像認識技術の研究にも注力してきました。ここ数年はコロナの影響で、国際学会がリモート開催となり、海外での発表経験を学生に積ませることができなかったのが残念ですが、在職中、多くの優秀な学生に恵まれ、国内外の著名な学会で発表できる多くの研究成果を得られたことが掛け替えのない喜びです。

在職中は、多くの方々に大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げますとともに、弘前大学のますますの発展を願っております。



農学生命科学部
分子生命科学科

教授
吉田 孝

海のモノとも山のモノとも

私が弘前大学に着任したのはちょうど世紀の変わり目、2000年の春でした。農生校舎の改修工事と重なり、コラボと農生の間で引越しを繰り返した先生もおられました。コラボ弘大ビルも半分しか完成しておらず、その6階に自分の実験室を任されました。それまでは糸状菌（黴菌）の酵素研究が私の専門でしたが、青森大学の梅津博紀先生からホタテ貝の面白さを紹介され、ホタテとコウジという居酒屋のような研究テーマでスタートしました。一方、植物病理学研究室には原田幸雄先生らを中心に集められた膨大な菌類ライブラリーがあり、それらも新しい酵素を探す上で大きな魅力でした。学科の壁の低さが幸いし、転学科で来た学生が院生となり、博士課程まで進学して半身萎凋病菌のつくるキシログルカン分解酵素の特性を解明してくれました。またホタテガイは思わぬ縁をもたらし、医学部の高垣啓一先生らの主導するプロテオグリカン応用研究プロジェクトに加えて頂きました。爾来、そのテーマは退官するまで続けました。弘前で20余年間には大震災やコロナ禍など、実に様々なことがありました。今後も弘前大学が発展して行くことをお祈り申し上げます。



農学生命科学部
地域環境工学科

教授
佐々木 長市

定年にあたって

毎年退職する方の記事を読み、多くの方が赴任時からの環境の変化をしみじみ感じていることがうかがえました。私も赴任当時のことを思い出すと弘前は梅雨がほとんどないし、夏の暑さや湿度もそれほど厳しくない過ごしやすい場所と思ったことを思い出します。

当時は、教養部がありこれが組織替えでなくなり各学部の先生が教養科目を担当するということになりました。まさか、教養科目を担当するとは予想しておりませんでしたので困惑しました。センター入試もむつ市や八戸市などに泊りがけで出かけて監督などもしておりました。改組も何度かあり、学部名まで変わったことが研究室の整理での冊子などを再読し懐かしく思い出されます。赴任当初は、保護者懇談会や今のようなシラバスというものもありませんでした。博士課程ができて博士課程の学生指導やこれに伴う入試などが実施されることになりました。また、教員業績評価制度の導入などがなされ、30年ほど務めるとこうした変化によく対応してきたのだとつくづく思います。

激動の時代を無事に過ごせたのは、教職員の皆さんの協力や理解があったからだと感謝しております。また、一緒に研究をともにした学生にも大いに感謝しております。今後も変化は続くと思いますが、弘前大学のおおいなる発展を祈念しております。



医学部附属病院
看護部

看護師長
小山内 由美子

定年退職を迎えて

昭和57年弘前大学医療技術短期大学部看護学科入学後、昭和60年に附属病院に入職、以来42年間、多くの先生、先輩方、後輩の方々に支えていただき、皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。小児科病棟での7年を皮切りに手術部、第一病棟4階、周産母子センター、約20年ぶりの小児科病棟、最後3年間は医療安全推進室勤務でした。新人1年目の時には、1例目の骨髄移植が行われ、緊張のなか夜勤を行い、丁寧で的確な先輩の指導に、早く自分も先輩方のようになりたいと思いながら過ごしました。手術部ではチーム医療の大切さ・大変さを学び、第一病棟4階では改めて看護の楽しさを感じながら、それぞれの部署で貴重な体験をさせていただきました。医療安全推進室では病院内の様々な職種の方々と協働していく中で、チーム医療の困難さも感じつつ、弘前大学病院の協力体制のすばらしさも実感いたしました。様々なご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

「提供される医療に関して不安を抱くことなく、しかも良質の医療を受けられることが保証される」という基本理念に向かって、さらなる弘前大学の発展と皆様のご健康をお祈りいたします。



医学部附属病院
第一病棟 2 階

看護師
廣田 るみ子

定年退職を迎えて

看護学生時代、小児・母性領域が得意であったことや産婦の分娩経過を観察している助産師の姿勢に憧れ、助産師になりました。

平成元年4月1日、弘前大学医学部附属病院に就職し、産婦人科病棟に配属されました。産科チームは、毎日午前8時30分から医師と助産師間で患者カンファレンスを実施し、情報共有した後に妊産褥婦のケアを行っていました。正常分娩の介助は、助産師主体で行うことができるため、当時新人助産師であった私は、とにかく先輩助産師が行っている手技や手順を何度も見学して覚えました。生命が誕生する瞬間に立ち会えるのは、助産師ならではの醍醐味だと思います。助産師として十数年働き、その後は看護師に移行し、内科系の病棟に勤務しました。慢性疾患で入退院を繰り返している患者が多く、また高齢化社会の現在、老老介護などニュースで取り上げられています。上司から勧められ、入院早期から地域での暮らしや見取りまで見据えた看護を提供できる看護師の育成を目指す研修に参加しました。研修中は、レポート提出や発表資料を作成し辛い時もありましたが、病棟で退院支援を進めていくための財産となりました。

最後に、弘前大学の一員として定年退職を迎えられたことを誇りに思っています。35年間ありがとうございました。



医学部附属病院
第二病棟 4 階

看護師長
福井 眞奈美

定年退職を迎えて

看護師として弘前大学に入職し、39年勤務させていただき無事退職を迎えることとなりました。多くの皆様に支えられてこの日を迎えられたことに感謝いたします。人生の3分の2を看護師として弘前大学で過ごしてきたことに改めて驚いております。先日、断捨離をと思い片付けをしていたところ一冊のノートが出てきました。新人で配属された手術部で書いていたノートでした。覚えることが多く、今ではマニュアルや指導体制が整っていますが、その頃は“見て覚える”“聞いて覚える”が当たり前のことで日々先輩をお願いして書き溜めた手書きのマニュアルでした。その時のことを思い出し、懐かしさと自分って頑張ったんだなという思いで捨てることができずまたそっと棚にしまいました。私の看護師人生は手術部に始まり、旧1外科、放射線部、整形外科、外来勤務を経て副看護師長、看護師長と過ごしてきました。その中でたくさんの方々との出会いがあり、たくさんを経験させていただきました。それを遠からずの距離感で見守り、導いてくれた上司にはとても感謝しています。定年退職という区切りの中でこれまでお世話になった皆様に感謝するとともにこれからの弘前大学の発展を心よりお祈りいたします。



医学部附属病院
手術部

看護師長
舘山 比佐子

定年退職を迎えて

入職から38年間多くの皆様に支えられ、無事定年を迎えることとなりました。感謝申し上げます。整形外科に8年、手術部には30年間勤務いたしました。人生の半分を手術部で過ごしたことになります。「禍福は糾える縄の如し」という言葉がありますが、手術部に在職した30年間はまさにこの言葉通りでした。予期しなかった手術部への異動で不幸のどん底に落とされましたが、信頼できる同僚と先輩方に出会い手術看護の楽しみを知ることができました。手術室では器械出し看護から始まります。昔は医師が器械を投げたり暴言を吐いたり、涙する時もありましたが、学び、経験をつみ、手術の「さき」を読むことができるようになると俄然楽しくなりました。当院で初めての生体肝移植の器械出しも担当し、深夜まで多職種チームで目的に向かって取り組んだことが印象的です。また、平成29年には脳死下臓器移植手術を担当、今まで動いていた心臓を意図的に停止するのは衝撃的でした。臓器移植を担当する看護師へは「ドナーの気持ちを尊重し、待っているレシピエントへ安全に臓器を届けることができるように頑張りましょう」と声をかけています。この30年間でたくさんのお出会いと別れを経験し充実した人生を送ることができました。これまで本当にありがとうございました。弘前大学の更なる発展をお祈りいたします。



医学部附属病院
入院棟東5階

副看護師長
阿保 恵美子

無事定年退職を迎え感謝を込めて

昭和60年4月に入職し39年間勤務させて頂き、この春無事に定年退職を迎えます。多くの皆様に支えて頂き深く感謝申し上げます。

新人として手術場に配属になり、諸先輩方に辛抱強く教えて頂き、温かく励ましてくださいました。

次は旧第一病棟4階（消化器外科・甲状腺・乳腺外科）での勤務で、結婚、子供を二人出産、父親をこの病棟で看取りました。その後、旧第一病棟3階（小児科）で勤務し、病気と闘う子どもの強さと無邪気な笑顔に励まれ、親に対してサポートする必要性を強く感じました。小児科で副看護師長に昇進し、がん化学療法看護認定看護師の資格を得ました。

平成23年東日本大震災があった4月に旧第一病棟8階（消化器内科・膠原病・血液内科）に異動になり、腫瘍内科外来や病棟や外来化学療法室で勤務しました。

令和3年4月に呼吸器内科外来に異動になり、多忙の日々に追われ、自分のしたい看護が何もできなかった後悔が残ります。

これからの皆様には、長い人生後悔のないように自分がやりたいことに勇気をもって挑戦していただきたいです。必ず自分の役に立つことだと信じています。

最後に心からの感謝と弘前大学の益々の発展と職員の皆様のご健康を祈念しております。



医学部附属病院
入院棟東8階

看護師長
桜庭 厚子

光陰矢の如し

昭和60年4月に附属病院入職後39年が経過し定年退職を迎えた今、様々な思い出が脳裏を駆け巡っています。39年の月日は長くもあり、振り返ると瞬く間に過ぎたようにも思え、まさに「光陰矢の如し」と感じます。

令和6年は新年の幕明けとともに能登半島に地震が発生し、祝賀ムードが一転しました。阪神淡路・東日本大震災を経験し、二度と起きてほしくないとの願いも叶わず、繰り返された悲劇と甚大な被害報道を目にして、天災の恐ろしさを改めて噛みしめています。

一方で、社会情勢変化や科学・技術の進歩には目を見張るものがあります。医学や看護の専門分野における著しい発展は、医療現場で働く私に知的興奮を感じさせ、ワンダーランドの如くワクワクする日々を過ごしました。しかし、50歳を過ぎた頃からは発展のスピードについていけず、最近では知力・体力・気力ともに限界を感じているのが正直なところです。

時代とともに価値観も変化し、現在は「多様性」や「総合力」が重要視されています。「世界に発信し、地域とともに創造する」を掲げ、その使命達成を目指す弘前大学の理念に通じるキーワードではないでしょうか。後輩たちが時代と共存し、柔軟に生き生きと働く組織であることを心より願っております。



医学部附属病院
経営企画課

課長補佐
長澤 恵美子

弘前大学に感謝

昭和57（1982）年4月、社会人として初出勤の日、紺色のスーツで弘前大学事務局を訪れ、にこにご微笑む学長秘書さんの前を通って局長室に入り、男性ばかりの同期4人と共に職務の宣誓をしたことを、退職の前に思い出します。

弘前大学では事務局、教育学部、医学部、理学部、農学部、附属学校、附属病院、被ばく研と様々な部署で働くことができました。学生と直接やり取りする機会は少なかったですが、入試課で現役学生たちと一緒に、高校生やその親御さんを相手に弘前大学の広報活動ができたのは楽しい経験でした。被ばく研では、福島県浪江町を数度訪問し、住民の多くが避難移転し空き家が目立つ町の復興の大変さを目にしました。また、医学部では今も続く医学部学術賞の設立に関わることができました。

42年前、事務で使用していたのは、電話、ファクスにコピー機だったものが、今や資料はクラウド経由、会議はオンライン併催が標準です。そして大学の女性職員も少しずつ増えてきました。

今後、世の中はどう変化していくのかな。でも、この地域に弘前大学がとても大切な存在、いえ、ますます重要な存在であることはこれからも変わらないですね。弘前大学に心から感謝します。ありがとうございました。

退職される教職員方からのメッセージ



地域戦略研究所

所長・教授
本田 明弘

北の風を追って

2016年の3月末に新幹線で新青森駅に到着すると線路横には残雪が残っていて、南国の長崎から北国の風に興味を持ち赴任した目には新鮮な光景でした。当時は青森市内の北日本新エネルギー研究所が勤務先で、長崎での民間企業研究所での生活と比べて時間や健康の管理など変化が多いなか、2018年には食料研究所と一緒に地域戦略研究所が発足しました。

研究面では学生時代から一貫して風に関する研究・開発に携わり、橋梁・高層建築などの大型構造物や風力発電に関して、実験・実測・シミュレーションを行ってきましたが、青森に来てからは流体実験設備のかわりに周辺に風力発電機の実機がある利点を活かし、現場での実測を中心に現実の姿の研究を進めました。中でも日没後の吹雪の中で回転する風車背後の流れを投光器で可視化する実験に協力頂いた久保田准教授、学生諸君には感謝に堪えません。

2021年4月に新エネルギー研究部門が弘前へ移転する際にはいろいろと課題もありましたが、学長をはじめ関係各位に多大なご協力を頂きましたことに感謝申し上げます。また2018年以来一緒に研究所を支えて頂いた所員の方々には、今後とも教育・研究の両面でより高い成果が上がるよう果敢に取り組んでほしいと思います。



医学研究科附属地域基盤型
医療人材育成センター

教授
鬼島 宏

弘前大学での20年

2004年8月に東海大学から着任し、弘前大学とともに足かけ20年を過ごしました。主に全学での活動を振り返らせていただきます。2006年度以降今日まで、教育委員会（当初は教育・学生委員会）委員をはじめ教育関連の委員を務めさせていただき、教育担当理事の先生方には大変お世話になりました。第1期中期計画・中期目標の下で全学的なFD活動を推進するために、2006年にカナダ・ダルハウジー大学に4名の教員が派遣されました。この4名のうちの一人に加えていただき、ティーチング・ポートフォリオ専門家としての資格認定も受けられたことは、私自身の教育活動の糧ともなりました。その後も弘前大学が獲得した文部科学省特別教育研究経費（2008年度～2012年度）「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開」の事業にも従事し、2012年3月には弘前大学出版会から事業と同名の単行本を出版することに至ったことは、大きな成果であったと実感しております。

なお、医学部医学科・大学院医学研究科での活動は「医学部ウォーカー」(https://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/publication_walker.html?id=walker) 第108号（2024年3月発行）に記載いたします。

弘前大学のさらなる発展をご祈念申し上げます。20年間、本当にお世話になりました。心よりお礼を申し上げます。



附属図書館
情報サービスグループ

係長
佐々木 忠

弘前大学での30年を振り返って

「ポツンと一軒家」や「限界集落」のTV局が取材に来るような秋田の田舎町での生活から東京での生活が始まったのは1985年6月でした。東京では、2つの大学に勤務し、1994年4月から弘前大学で勤務し、この3月に退職を迎えることになりました。

弘前で生活で一変したのは通勤時間でした。東京にいた時は1時間30分程要して通勤していました。最寄り駅まで15分程で、現在の居住地から大学まで通勤時間と同じ位です。われながらよく通勤していたと思います。

弘前大学では30年勤務しました。主に図書館でしたが、途中5年間、学部の事務や学生課で勤務させていただきました。学生課では、「学園だより」の編集をしていたので、退職が近づく「退職にあたって」の原稿依頼がくるといながら当時仕事をしていた覚えがあります。また、保護者懇談会開催のために学長と共に各地を回ったことや外国出張など図書館では経験できないような仕事をさせていただきました。

図書館では、図書の登録など裏方の仕事が多かったですが、学生と接する機会が多い現在の勤務場所の仕事が楽しいと感じています。退職前の勤務場所でよかったと思います。

弘前大学での30年間の勤務、ありがとうございました。今後の弘前大学の発展をお祈りします。

CLOSE-UP 研究室紹介



農学生命科学部国際園芸農学科 園芸農学コース家畜生理学分野

准教授 川端 二功

1. はじめに

当研究室は2018年8月に九州大学大学院農学研究院から異動してきて発足した研究分野になりますが、家畜飼養学分野（松崎正敏教授）と共に、歴史ある弘前大学畜産学研究室を構成する研究分野となっております。研究対象動物は家畜飼養学分野が主として反芻家畜であるのに対し、当分野ではニワトリを主としています。所属する学部学科は農学生命科学部国際園芸農学科であり、17名の教員がそれぞれ研究室を運営しております。3年次になると研究室に配属されると同時に、食料生産に関する基礎知識と技術を学ぶ園芸農学コースと、国内外の農業経営・流通について学ぶ食農経済コースに別れます。私の研究室は園芸農学コースに所属しているため、畜産学以外にも果樹学、作物学、蔬菜学、花卉学、生産機械学などを学ぶことができます。また、食農経済コースの講義を自発的に取ることで、食と農業をめぐる社会的経済的課題についても洞察を深めることができます。このように、学部教育を通じて農業生産領域全体における畜産学の立ち位置を把握できるようになると思います。

一方で、畜産学（動物生産科学）はウシ、ブタ、ニワトリ、ウマ、ヤギ、ヒツジなど、対象とする動物も多く、学びべき関連学問領域（遺伝育種学、生殖生理学、動物栄養科学、生体機構学、草地管理学、動物生産管理学、獣医学、他多数。）も幅広いです。国内外の大学では動物生産科学を中心に学ぶ単科大学や学科もあるわけですから、納得してもらえんと思います。この幅広い畜産学領域の知識等は、当研究室に入ってから研究活動を通して身につけてもらうよう指導しております。

2. 研究内容

研究室名のとおり、研究は家畜の生理学を中心にしていますが、これまでの経験を活かして幅広く進めています。私は九州大学農学部で畜産学を学びましたが、修士・博士課程では京都大学農学部の栄養化学研究室（伏木亨教授）で学位を取り、香辛料成分の食品機能学的解析や、美味しさの生理学的メカニズムなどについて勉強いたしました。また、京大院に所属しながら、愛知県岡崎市の生理学研究所細胞生理研究部門（富永真琴教授）に1年間国内留学し、辛み受容体（温度受容

体）や酸味受容体候補分子の電気生理学的解析を行いました。伏木先生も富永先生も私にとっては雲の上の存在で、多くのことを学ばせて頂きました。学位取得後は日本水産株式会社（現株式会社ニッスイ）に研究職で就職し、魚油や魚肉タンパク質の食品機能学的研究を行い、動物実験やヒト臨床試験、商品開発等の経験を4年間積みました。その後大学に戻りまして、現在の主たる研究テーマにつながる「ニワトリの味覚受容機構」について九州大学農学部で研究をしておりました。

このように、私は畜産学だけをやってきたわけではなく、食品機能学、味覚生理学、細胞生理学など複数の研究領域で仕事をし



写真1 飼育しているニワトリのヒナ
ヒナは温度がコントロールされた育雛器で飼育しています。

ため、現在の研究室でもこれらの経験をフル活用した研究を展開しております。研究を進める上でも幅広い領域からの視点は当然重要ですが、学生の就職の選択肢が広くなるといっても非常に大きいと考えています。また、幅広い領域の競争的資金に応募することで、安定した研究室運営を目指しています。

2-1. ニワトリの味覚・嗅覚機構の解明

つい最近、ニワトリが甘味を感じていそうだということがわかってきました。ニワトリに甘い溶液を舐めさせた後、お腹に不快感をもよおす物質を注射すると、甘い溶液の味と不快感が連合学習され、翌日以降の甘い溶液の摂取量が減るというものです（詳しくは2023年12月にプレスリリースしたのでそちらをご覧ください）。人間でも生牡蠣にあたりと美味しい生牡蠣を嫌いになる現象として見聞きしたことがあると思います。ニワトリは甘い溶液に対して味覚嫌悪学習が成立したのですが、この結果から、ニワトリが甘味を感じていることがわかりました。ニワトリはトウモロコシやコメなどの穀物をたくさん食べますが、甘味受容体の遺伝子が一部失われているため、甘味は感じないだろうと考えられてきました。しかし、穀物を好んで食べるニワトリはやはり甘味を感じていることがわかったわけです。アニマルウェルフェアの観点からも、主要な産業動物であるニワトリがどのように味を感じているかという情報は極めて重要なことだと思います。甘味だけでなく、苦味、うま味、酸味、塩味（以上基本五味）、脂肪味やカルシウム味（これら2つの味は第六の味と呼ばれています。）など、一つ一つの味質についてニワトリがどう感じているかを明らかにする研究をしています。

味覚の研究では上記の動物行動学的解析だけでなく、味覚受容体の研究も進めています。現在、甘味センサー候補分子を培養細胞に発現させ、電気生理学的手法を使って甘味物質にセンサーが反応するかどうかを検証しています。検証の結果、ニワトリの口腔組織に甘味に反応するセンサーがあることがわかりました。その他、これまでにニワトリの味覚受容体の機能について複数の成果を発表しています。

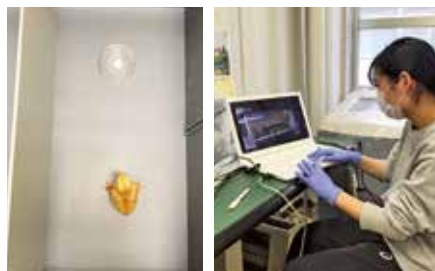


写真2 ニワトリヒナのオープンフィールド試験
ろ紙に染み込ませた匂い成分に対しヒナがどのような行動を示すか検証しています。（左）。撮影した動画を専用のアプリで解析します（右）。



写真3 リック（舐め行動）テストの様子
香辛料成分の溶液を舐める回数を測定している様子。16種類の溶液を連続で測定することができます。



写真4 呼吸ガス分析装置
チャンバー内に充満したマウス（左）やニワトリヒナ（右）の呼吸を採取して代謝状態を測定することができます。

また、食物の摂取には味覚だけでなく、嗅覚も重要な働きをしますので、ニワトリの嗅覚受容機構についても最近研究を開始しました。複数の嗅覚受容体遺伝子がニワトリ嗅上皮に発現していることや、種々の匂い物質に反応してニワトリの行動が変化することなどを明らかにしています。今後はニワトリの嗅覚受容体が実際に特定の匂い物質に反応することを証明していきたいと考えています。

味覚および嗅覚の研究を進めることで、これまで味や匂いが好ましくなくニワトリの餌として利用できなかった資源などを飼料化することや、ニワトリの感覚を刺激することでアニマルウェルフェアに配慮した新しい生産方式の確立等に貢献できると考えています。青森県は有数の畜産県ですので、地域貢献にもつながる研究です。

2-2. 香辛料の美味しさのメカニズム

香辛料には病みつきになる美味しさがあります。しかし、なぜ人がこれほどまでに香辛料を好きなのかはよくわかっていません。研究室では、マウスを用いた行動学的解析により、香辛料がもたらす美味しさのメカニズムについて研究を進めています。マウスの解析では加齢により香辛料に対する感受性が低下することがわかってきました。要するに、辛みの刺激を感じにくくなっているため、満足感を得るには多くを摂取しなければならないようです。加齢による影響は香辛料の種類によって違うこともわかりつつあります。

2-3. 新規タンパク質素材の食品機能学的研究

食品企業との共同研究も進めています。現在、新規の動物性タンパク質素材の機能性についてマウスを用いて研究しています。主に、呼吸ガス分析装置を用いてエネルギー代謝に与える影響を解析しています。動物では代謝を変化させる効果が見出されたので、これからヒト臨床試験を行う準備をしています。

2-4. 岩木健診における味覚健診

弘前大学では地域住民の皆様のご協力をいただき、岩木健康増進プロジェクトが実施されております。当研究室では2019年から、医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座（松原篤教授）、九州大学大学院歯学研究院口腔機能解析学分野（重村憲徳教授）、ハウス食品グループ本社様と共同で味覚健診を実施しております。健診を通じて味覚の健康状態を知ってもらうだけでなく、味覚感受性に影響を与える因子の探索研究を当研究室で行っています。



写真5 組織染色実験を教わっている様子

3. おわりに

味覚・嗅覚研究を軸として、ニワトリ、マウス、およびヒトを対象にして研究を進めていることをご理解いただけたかと思います。これからも総合大学の強みを活かし、多くの他分野の先生方や職員の皆様のご協力をいただきながら研究室を運営していきたいと思っております。学生の皆さんも当研究室でぜひ一緒に頑張りましょう！



写真6 味覚受容体の機能を解析するための装置
イオンチャネルの活動を観察するパッチクランプのセット（左）と、カルシウムイメージングなどに使用できるマルチモードマイクロプレートリーダー（右）。



PICK UP

個性豊かな3名の教員が
新たに着任いたしました



TEACHER

01



医学研究科

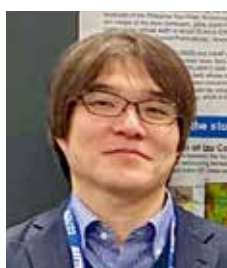
附属健康・医療データサイエンス研究センター

山口 亨

2023年12月より、民間企業とのクロスアポイントメントで医学研究科附属健康・医療データサイエンス研究センターに着任した山口亨です。専門は、生物統計学と生体医工学で、企業では機能性食品の開発、特にヒト試験のデザインとデータ解析に従事しました。また生体インピーダンスを利用した内臓脂肪計の開発に関わりました。弘前大学の研究・教育に貢献できるよう精進いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

TEACHER

02



理工学研究科

地球環境防災学科

道家 涼介

2023年11月に着任いたしました道家(どうけ)と申します。私の主な研究対象は、活断層や活火山の周辺における地殻変動(大地の動き)です。とくに、ここ数年は、人工衛星が取得したデータの解析を通して、地殻変動の検出とそのメカニズムについての研究をしています。また近年は、これらの手法を盛土や地盤沈下などの監視に応用した研究も行っており、研究を通して地域の防災や環境などの課題に対し貢献したいと考えております。

TEACHER

03



農学生命科学部

国際園芸農学科

登島 早紀

令和5年12月に着任しました登島早紀(としまさき)と申します。これまでバラ科果樹を中心に成分分析や育種、種内の多様性について研究をしてきました。今後弘前大学では青森の特産品リンゴやラズベリーを利用して、アントシアニンやポリフェノール等の機能性成分の研究や青森の野生植物を利用した果樹の育種を研究したいと思っています。そして、教育・研究を通して青森の農業の発展に貢献できるよう邁進して参りたいと思います。



TOPICS



令和5年度弘前大学学生表彰を実施

社会活動や研究活動、課外活動で活躍した学生及び学生団体を表彰する学生表彰表彰式を令和6年3月5日(火) 大学会館3階大集会室で行いました。

今回の受賞者は、社会活動及び課外活動で活躍した2団体と研究活動や課外活動等で活躍した学生16名で、福田学長から学生1人ひとりに表彰状と記念品が贈呈されました。

福田学長からは、各学生の功績を讃え、「各活動とも、コロナ禍という活動が制限される状況の中で、あきらめずに練習や活動を継続し、素晴らしい結果を収められたものとも思います。皆さん方の自信となっただけでなく、本学で学ぶ学生諸君の大きな励みとなることと思います。残された大学生生活のなかで、また卒業・修了

予定の方は新天地において、次なる高い目標を定めて、さらに研鑽を積まれることを期待します。」との言葉が送られました。

受賞者を代表して、農学生命科学研究科2年金原龍飛さんが、「私たちの努力が実り認めていただけることは、先生方や学友たちの協力、福田学長を初め多くの方々のご尽力があつてのことです。今後も常に感謝の気持ちを忘れず、学び舎で得た知識と経験を社会に還元し、弘前大学の名にふさわしい存在となるよう一生懸命努力していきます。」との謝辞を述べました。

なお、今年度の受賞者には、ネットワンシステムズ株式会社奨学基金により、活動奨励費が給付されました。

団体

- 社会活動で特に顕著な功績があった団体
 ■課外活動で特に顕著な功績があった団体

環境サークルわどわ
 弘前大学柔道部



個人

- 研究活動で特に顕著な成果を挙げた学生

医学部保健学科 4 年	玉 澤 愛 渚
医学部保健学科卒業	達 琴 乃
理工学研究科博士前期課程 2 年	目 黒 晴 輝
理工学研究科博士後期課程 3 年	冯 长 瑞
理工学研究科博士後期課程 3 年	Aghietyas Choirun AZ ZAHRA
農学生命科学部 4 年	村 木 香渚美
農学生命科学研究科修了	念 代 周 子
農学生命科学研究科 2 年	金 原 龍 飛
農学生命科学研究科 2 年	橋 本 和 樹
農学生命科学研究科 2 年	杉 山 瑞
地域共創科学研究科 2 年	周 奕 帆

- 課外活動で特に顕著な功績があった学生

医学部医学科 3 年	工 藤 壮 太
医学部医学科 6 年	相 沢 美 月
理工学部 4 年	大 野 花 凜
農学生命科学部 2 年	小 林 祐 輝

- その他、

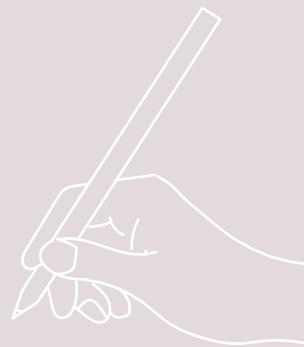
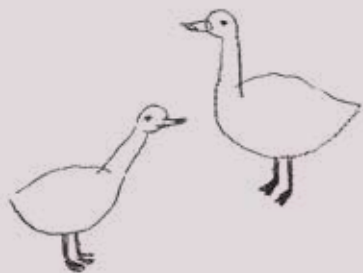
特に優れた業績、功績等があったと認められる学生
 地域共創科学研究科 2 年 孫 吉 良

2023 年は、新型コロナウイルスが 5 類感染症となり、ウイルス蔓延前の日常が少しずつ回復される年だったと思います。大学の講義も対面形式が復活して、マスクの着用義務も薄れました。思い返してみますと、今年度に卒業される 4 年生の皆さんは、新型コロナウイルスに翻弄された大学生活だったと思います。新人生として入学はしたものの、大学の授業はオンラインで、それに慣れるまで苦勞したものと拝察します。課外活動などにも不自由したものと思います。そのような辛苦のなか、卒業を迎えたことに万感の思いを抱いているのではないのでしょうか。

編集後記

今号では、「卒業・修了・退職にあたって」という特集を掲載しました。ご卒業・ご修了される方は、おめでとうございませう。今後、社会人としてのご健闘をお祈り致します。定年退職される教職員の方は、長きに渡りお疲れ様でした。退職後もお元気で人生のセカンドステージを満喫して頂ければと思います。

(上原子)



弘前大学生協 創立 60 周年記念事業

これまで。これから。



60th Anniversary
Hirotsaki Univ. coop

弘前大学生協は、組合員の皆様のご利用と運営参加に支えられ、2023 年で創立 60 周年を迎えることができました。

創立 60 周年を記念し、2023 年度は「学生の経済支援」と「大学・生協の広報」を中心とした、組合員に還元する取組を記念事業として行いました。

今年度行った主な記念事業をご紹介します。



① 【写真コンテスト】(6/30～12/31)

弘大／弘大生協の「大好きなところ」と題して、お気に入りの場所の撮影とコメントを募集しました。選ばれた作品は記念誌や店舗内に掲示します。



② 【朝食・夕食ポイント付与】

(7/10～8/4・10/10～2/9)

朝食・夕食をより多くの組合員に食べていただけるよう、一食のご利用で 60 ポイントを付与しました。

③ 【アクリルキーホルダー】

弘前大学と弘前大学生協にまつわる風景や商品でキーホルダー全 10 種を作成。約 1 か月で完売しました。

④ 【チャージ金額の 6% 付与】(7/3～7・11/27～12/1)

「大学生協アプリ」に電子マネー Pico チャージ額の 6% 分をポイント付与しました。

⑤ 【記念セール】組合員還元企画 (7 月七夕まつり、11 月生協まつり) で 60 周年記念セールを各店で実施しました。



弘前大学生協は弘前大学と「福利厚生に関する業務委託」契約を結び、学生・教職員組合員の生活を様々な事業を通してサポートしています (2004 年～)。

教職員の皆様の研究・教育のサポートに加え、大学・地域とともに「学生の経済支援」ならびに組合員の参加をもとにした「よりよい大学生活づくり」に、引き続き職員一同努めて参ります。



vol.209 / 2024年3月発行 題字：福田眞作 学長

編集：国立大学法人弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長：李 永俊（教育委員会）

委員：近藤 史（人文社会科学部）

吉澤 忠司（医学研究科）

上原子晶久（理工学研究科）

高松 達典（学生課）

帆苺 基生（教育学部）

高橋 康幸（保健学研究科）

吉仲 怜（農学生命科学部）

白石 興介（学生課）

印刷：コロニー印刷

弘前大学

検索

学園だよりに関するご意見がございましたら、下記のアドレスまでお寄せ願います。

弘前大学学務部学生課 e-mail: jm3113@hirosaki-u.ac.jp